

成人期における多重役割と心理的健康度(2)

-共働き世帯における夫婦の関係性の視点から-

福丸由佳

(お茶の水女子大学人間文化研究科)

無藤隆

(お茶の水女子大学生生活科学部)

【目的】

昨年に引き続き、乳幼児を持つ親を対象に多重役割と心理的健康度との関連について検討する。従来、多重役割研究は有職の母親を対象にした研究が多くみられるが、既婚女性の就業に関わる影響は自身や母子関係のみならず夫や父子関係にも影響を与える(Grych & Clark,1999)こと、さらに多くの研究で専業主婦の閉塞感とそれに対する父親の関わり的重要性が指摘される一方で、親のつとめと職場の間で余裕のない現状を訴える父親の声もあることなどを踏まえると、父親の置かれた状況を検討することはパートナーである母親、そして夫婦・親子・家族という視点からも重要であると言えよう。福丸(2000:発心11回大会)は、専業主婦世帯に比べて共働き世帯の父親の方において、家庭役割から仕事役割へのネガティブスピルオーバーが高いものの、それが抑うつ度とは関連しないこと、また共働き世帯の特徴として夫婦関係の質が抑うつ度との関連において重要であることを示した。これらの結果を踏まえて、今回は特に夫婦の関係性の中でも妻の就業に対する夫の意識という視点から分析を行った。なお、ここでの多重役割とは、親役割、配偶者役割、および仕事役割を示す。また心理的健康度は抑うつ度を取り上げた。

【方法】

平成11年3月、東京都内および神奈川県内の幼稚園・保育園を通じて質問紙調査を実施した。質問紙の配布は816組、回収数は456部(55.9%、うち夫婦ともに回答を得られたのは344組(42.2%)だった。主な調査項目は以下の通りである。

1. 仕事役割と家庭役割間の関係：仕事役割と家庭役割の間のスピルオーバーを問う項目からなる。
2. 夫婦関係：菅原・詫摩(1997)の夫婦関係の愛情尺度を用いた。「夫(妻)を一人の人間として深く尊敬している」など10項目からなる。
3. 心理的健康度：20項目からなる抑うつ尺度(CES-D Radloff,1977)。
4. 妻の就業に対する意識：妻の現在の就業状況を

どのように考えているかを問う項目。

5. 属性：労働時間、学歴、などのほか、経済的満足度や職場環境についても質問した。

また、この他に親、配偶者、仕事の各役割における経験の質についても質問した。

【結果と考察】

まず仕事役割と家庭役割間のスピルオーバーについて、因子分析の結果①家庭役割から仕事役割へのネガティブスピルオーバー、②両役割間のポジティブスピルオーバー、③仕事役割から家庭役割へのネガティブスピルオーバー、の3因子が抽出された。妻の就業の有無で尺度得点を比較したところ、共働き世帯群の父親($n=124$)の方が①が有意に高いことが示されたが($t=-3.00, p<.01$)、心理的健康度の指標である抑うつ尺度とは有意な関連が見られなかった。しかし共働き世帯の中で妻の就業に対する意識についてコントロールしたところ、妻の就業に対して否定的な(妻の就業に対して「今は働いているが、本当は家にいて欲しい」と答えた)父親においては($n=30$)、家庭役割から仕事役割へのネガティブスピルオーバーが抑うつ度と有意に関連していた($r=.405, p<.05$)。

一方、共働き世帯の母親は、自分の就業への夫の意識によって夫婦関係の満足度には差が見られなかったが、抑うつ度と③の仕事役割から家庭役割へのネガティブスピルオーバーにおいて有意な差が見られ($t=3.84, p<.001; t=2.07, p<.05$)、夫が就業に対して否定的だと抑うつ度、ネガティブスピルオーバーのどちらにおいても、得点が有意に高いことが示された。さらに就業に対する夫婦間のズレによる分析を行った。就業に対する意識が夫婦間で一致している群($n=82$)、夫が否定的で妻が肯定的な群($n=30$)、夫が肯定的で妻が否定的な群($n=12$)の3群で比較した結果、夫が否定的で妻が肯定的な群において、妻の抑うつ度が最も高いことが示された($F=8.64, p<.001$)。これらの結果から、妻の就業を夫がどのように捉えているかが、夫自身の心理的健康度のみならず、妻の心理的健康度にも関わってくると言えるだろう。